

かゑらじと かねて思へハ 梓弓  
 なき数に入る 名をぞとどむる  
 四條畷に散った若き武将、楠正行

楠正行通信 第79号

平成30年11月13日

発行＝四條畷楠正行の会

〒575-0021 四條畷市南野5丁目2番16号

四條畷市立教育文化センター内 072-878-0020

「カルタ大会は楽しかったから、もっと正行のことを知ろうと思った。」

楠正行 くすのきまさつらかるた 完成!

大阪電気通信大学制作 絵札・字札・栞・地図・箱

10/26 くすのき小学校でカルタ大会



**十字路**  
 ◇…南北朝時代の武将、楠木正成の嫡男・正行をテーマにしたかるたが完成し、大阪府四條畷市の市立くすのき小で大会が開かれた。写真。

◇…地元市民団体と大阪電気通信大が作製。四條畷ゆかりの正行の生涯などを字札と絵札に盛り込んだ。12月中旬から1500円(税込み)で販売する。

◇…大会には児童や保護者ら約140人が参加。3年の女兒(8)は「かるた大会は楽しかったから、もっと正行のことを知ろうと思った」。

同校で開かれたカルタ大会では、体育館に10枚のマットを敷き、児童と保護者が入り混じって、20班に分かれ、10班一斉に2回のカルタ遊びを行いました。

最初は緊張気味だった児童も、カルタ取りが始まると、徐々に熱が入り、「わたしが先!」「しまった!」とカルタ取りに熱中。感想を児童に聞いてみると、「楽しかった。」「また、したい。」「面白かった。」等とうれしい反応を聞くことが出来ました。(写真:10月27日付産経新聞夕刊紙面)

12/8 総合センターでカルタ大会

12月8日(土)午後1時から4時までの間、市民総合センター1階展示ホールで小学生以上の児童対象に楠正行カルタ大会を開催します。ぜひご参加ください。

また、カルタ大会に合わせて、12月5日(水)～11日(火)の1週間、同センター1階ホールでくすのきまさつらかるたの「原画展」も開催します。ぜひご来場の上、カルタの原画をお楽しみください。

楠正行 くすのきまさつらかるた

一部、「くすのきまさつらかるた」をご紹介します。

四條畷楠正行の会と大阪電気通信大学の産学連携事業、社会プロジェクト実習授業第2弾「楠正行くすのきまさつらかるた」が完成しました。

今年4月にスタートしたこの授業は、扇谷による二回の講義と、吉野山如意輪寺と大阪市渡辺橋二回の現地学習を経て、6月から6班に分かれて絵札や字札制作に着手、8月の集中講義で試作のプレゼンを行ったうえ、10月初めに完成しました。

10月10日には電通大学で初めてのお披露目となる「カルタ大会」を開催し、10月26日(金)、四條畷市の「くすのき小学校」体育館で、3年生の児童と保護者約130名によるカルタ大会を開催しデビューをしました。



四條畷の合戦を前に、如意輪寺の本堂に詣でた正行は、その板扉に鏝で、「かゑらじとかねて思へば 梓弓 なき数に入る」と、辞世の歌を刻みます。

この歌の大意は、今度の合戦は、生きて帰れぬ身である

と思っているので、死者の数に入るわが名を書きとどめて出発する、との覚悟をうたったものです



**ち** 父知らぬ  
正行遺児という子あり  
池田の庄の城主になりて

正行にはなんと子供がいました。正行には内室がいて四條畷の合戦の前にその内室には子供ができていたのです。しかし四條

畷の合戦後、実家の能勢の内藤満幸は足利方に誼を通じ、怒った正儀は正行の内室を能勢に帰しました。

その後、内室は池田家城主の教依に嫁ぎ、教依は生まれた子供に池田教正と名付け池田家の嫡子・惣領として育てました。岡山池田藩は教正の子孫です。



**と** とても世にながらう  
べくもあらぬ身の  
飯の契りをいかで結ばん

正行は後村上天皇から弁の内侍を妻にと薦められました。しかし、父の遺訓を守り、吉野朝を守るため、死覚悟の戦いを決

意した身で妻を迎えるわけにはまいりませんと、断ったときにうたった歌です。

正行に残る唯一のロマンスともいえる弁の内侍との辛い、悲しい別れでした。



**ね** 願ひ空しく送られし  
父首級に幼な子は  
後追いの不忠母に諭され

湊川の戦で尊氏に敗れた正成の首級は、京の六条河原でさらし首にされた後、尊氏によって河内東条に送り届け

られました。観心寺の中院で父の変わり果てた姿を見た正行は自責の念にかられ持仏堂に駆け込み、腹を切ろうとします。

正行の様子がおかしいと後をつけてきた母、久子は「なんと不心得をするのですか。父は後を追えと言いましたか。そなたのお役目は生きることではないですか」と訓戒され、この時、正行は正成の遺訓を胸に生きることを決意しました。



**ひ** 百四十三人最後まで  
共にと名を連ね如意輪寺  
本堂に過去帳納め

四條畷の戦いを前に吉野を訪れた正行は、後村上天皇に別れの挨拶を終えた後、如意輪寺に詣で正行と同行する143名

の武士一人一人が自らの手で過去帳に名を記すことで、自らの死を覚悟して戦いに挑む決意を明らかにし、その過去帳を如意輪寺本堂に奉納しました。

143名の中には、正時、正家、賢秀、新兵衛、関住良圓、三輪西阿、安間了願、青屋刑部らがいました。



**め** 目指す四方の敵  
相手に一千騎 四條畷に  
菊水の旗掲げて

菊の紋は天皇家の家紋です。正成が使った紋は「菊水」といわれており、これは忠義に篤い正成を讃えて後醍醐

天皇が菊の紋を下賜したことによります。

正成は天皇家の家紋などあまりにも身に余ることだと思ひ、菊の花が川の流れにゆっくり身を任せているような美しい家紋を使うようになったのです。

この菊水の旗を掲げて、正行は四方の敵相手にたった1000騎の兵で、四條畷の戦いに挑みました。



**よ** 吉野を出でて  
いざ四條畷 本陣  
往生院から馬懸ける

いよいよ、正行最後の戦いが始まりました。吉野如意輪寺に詣でた正行は、覚悟の軍を吉野からいざ四條畷へと

進めます。

正平3年1348、正行は年が明けると全軍を河内東条に集め、出陣を宣言しました。精兵1000騎を前線に、そして弟正儀を筆頭に、河内東条留守部隊に約2000名を残し、一部槇尾、吉野山にも兵を配置する周到さで、堂々と出陣し、東大阪市六万寺、河内往生院に本陣を置きました。

1月5日の早朝、河内往生院を発した正行隊は巳の刻、午前10時、野崎で第1期の衝突をします。

※12月中旬以降、このカルタを販売予定です。頒価は1500円(税込)

(文責『四條畷楠正行の会』代表 扇谷昭)